

総合教育会議 「生徒指導・不登校」 資料

1 問題行動等の件数

【小学校】

種別			R1	R2	R3	R4	R5(5月末)
刑法犯行為	暴力行為	校内	11	0	9	10	0
		校外	0	0	0	0	1
	窃盗(万引き)		2	0	1	4	2
いじめ(人)			215	155	283	212	33

【中学校】

種別			R1	R2	R3	R4	R5(5月末)
刑法犯行為	暴力行為	校内	4	0	14	4	0
		校外	0	0	0	0	0
	窃盗(万引き)		2	0	1	5	0
いじめ(人)			30	33	31	24	3

2 不登校児童生徒

校種別	R1	R2	R3	R4	R5(5月末)
小学校	18	18	26	29	0
中学校	33	37	54	73	12
合計	51	55	80	102	12

3 適応指導教室等

教室等		R1	R2	R3	R4	R5(6月末)
適応指導教室	社	8	11	14	9	9
	滝野					1
	東条					2
フリースクール		0	0	1	1	2

4 別室指導教室(1週間以上、利用した人数)

令和4年度 小学校20人、中学校24人

一人一人を大切にする学校・学級づくりを目指したKATOプロジェクト

1 趣旨

各校の生徒会・児童会代表者が、自校の取組を交流したり、いじめ問題の解決に向けて話し合ったりすること、また、教職員が居心地の良い学級づくりの研修を行うことで、児童生徒と教職員が両輪となり、一人一人を大切にする学校・学級づくりを目指す。

2 教職員研修

- (1) 内容 いじめ問題の理解と対応 ～心理学から考えるいじめのない学級づくり～
- (2) 講師 兵庫教育大学大学院学校心理・学校健康教育・発達支援コース教授 秋光恵子 氏
- (3) 日時 令和4年5月25日(水) 15時30分から16時45分 滝野東小学校会場
※会場校以外の教職員は研修動画視聴。

3 いじめ防止フォーラム

(1) 内容

- ①各校のいじめ問題防止活動報告
- ②グループ討議及び討議結果の発表
【討議テーマ】：一人一人を大切にするために、心がけていること
- ③各学校の取組等について講評 兵庫教育大学大学院教授 秋光恵子 氏

(2) 日時 令和4年8月1日(月) 10時00分～12時00分

(3) 参加者の感想

- ・「やしろレンジャー」のような、低学年でも楽しく分かりやすい取組をしたいと思いました。
- ・中学生の方たちがやっていたアンケートなどをして、みんなの気持ちを聞いて、私たちの学校に合ったいじめ防止対策をしたいです。



いじめ防止フォーラム プレゼン発表の様子



いじめ防止フォーラム プレゼン資料例

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動

1 趣旨

「いじめを許さない」を合言葉に、児童生徒が主体となり「自分たちができることは何か」等を考え、いじめ問題を自分の事として捉えて、行動する機会を設定し、多様な取組を推進する。

2 活動テーマ例

- ・ネバーギブアップ！ ～笑顔で挑み続ける 社っ子～
- ・気持ちを込めて「まほうの言葉」を ～あいさつを基盤にしたよりよい人間関係づくりをめざして～

3 児童生徒の感想

- ・やしろレンジャーを通して、いじめをされたらどうなるかを下級生に知らせるために、いじめについて学級で話し合い、劇を作ったことは私たちの自慢になった。(児童会役員)
- ・ああいう言葉(ほっこりする言葉)が使えたらいいなと思ったし、友だちに言えたのでよかった。(2年生)



社小 「やしろレンジャー」の活躍

3 成果

- ・児童会の年間スローガンとリンクさせることで、常にだれもが意識して、「おはようございます」「ありがとう」などの「まほうの言葉」を使おうと心がけることができた。教師も含め全員で取り組むことが、学校全体の人間関係づくりにつながった。
- ・人権の花運動の取組では、9年生と1年生が一緒に活動を行った。9年生の専門部員が花植えの準備や活動のリーダーを務めたことで、「みんなが気持ちよく過ごすことができる美しい学校を自分たちでつくる」という意識をもって、主体的に取り組む姿が見られた。



東条学園 人権の花運動

4 課題

- ・今後は、各取組の実施後に簡単なアンケートを実施するなどして成果や課題を共有し、さらに改善していじめ問題防止につながるように活動していく。
- ・前年度よりも異年齢の交流の場を設けることができたが、さらに遊び以外の掃除や学習の場でも交流の場を増やし、互いを知り、温かい人間関係を築くことで、いじめが生まれない環境をつくっていく。



福田小 運動会の児童会種目(フープくぐり)

加東市不登校未然防止対策事業

～不安に対処する力を育むプログラム「勇者の旅」プログラム実施について～

1 趣旨

不登校の主たる要因と分析されている「不安・無気力」を改善する予防的な対策を講じるため、不安に対処する力を育む「勇者の旅プログラム」を実施し、不登校の未然防止に取り組む。

2 対象 市立小学校・義務教育学校5年生

- ・令和3年度 2校先行実施
- ・令和4年度 全小学校・義務教育学校実施

3 内容

- ・認知行動療法に基づいた「勇者の旅」プログラムを心の健康をテーマとした5年生総合的な学習の時間に位置付けて全10時間学習
- ・自分の不安の問題を解決する方法を考えたり、実際に行動したりすることを通して、児童が不安への対処力を身に付ける。
- ・6年生を比較対象群として、5年生と同時期にアンケートを実施して、兵庫教育大学と連携して検証する。

4 令和3年度の先行実施アンケート結果

プログラム授業実施前、実施後、実施後2～3か月後にアンケートを実施して効果検証。

- ・尺度（5つ）：「不安」「学校嫌い（不登校傾向を示す）」「適応」「うれしい体験」「心身の不調」

○上記のうち、プログラム授業を実施することで、効果が表れた項目（3つ）

「不安」 「学校嫌い（不登校傾向を示す）」 「心身の不調」

